



中世以来の農山村景観が今に息づく「川名ひよんどの里」

浜松歴まち散歩

歴史的風致
広報
第003号

【自然的特性】
川名は東西約一・五キロメートル、標高一〇〇〜一三〇メートルほどの小さな盆地を中心に集落が展開しており、北側に霧山(標高四三〇メートル)、南側に三岳山(標高四六七メートル)がそびえ、三岳山の麓を川名川

が流れる。川名は東西約一・五キロメートル、標高一〇〇〜一三〇メートルほどの小さな盆地を中心に集落が展開しており、北側に霧山(標高四三〇メートル)、南側に三岳山(標高四六七メートル)がそびえ、三岳山の麓を川名川

【歴史的特性】
川名は井伊家ゆかりの地として令和の現在まで連続と歴史を繋いできています。三岳山には国指定史跡「三岳城跡」があり、南北朝に井伊氏が宗良親王を匿ったと伝えられています。応永三三年(一四二六)には福満寺薬師堂本尊木造薬師如来座像が井伊氏支援のも



表彰式

川名のひよんどりにみる歴史的風致 第17回静岡県景観賞 優秀賞を受賞

令和七年(二〇二五)一月十四日、県庁にて第17回静岡県景観賞表彰式が行われ「川名ひよんどの里」が優秀賞を受賞しました。段々畑に栽培された花木のランドスケープや伝統的な面影を残す川名集落の良好な景観と、その景観を構成する歴史的建造物(福満寺薬師堂)の保存修理や史跡の解説板設置といった景観資源の保存活用、ひよんどり継承活動を核にした多様な主体との連携による後継者育成や地域の情報発信などの取り組みが評価されました。

【歴史的特性】
川名は井伊家ゆかりの地として令和の現在まで連続と歴史を繋いできています。三岳山には国指定史跡「三岳城跡」があり、南北朝に井伊氏が宗良親王を匿ったと伝えられています。応永三三年(一四二六)には福満寺薬師堂本尊木造薬師如来座像が井伊氏支援のも

と造立され、この頃には国指定重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」が行われていたと伝えられています。永禄六年(一五六三)には急死した井伊直平の墓所が築かれるとともに、直平の亡骸から鎧を脱がせたといわれる橋は鎧橋と呼ばれ、その名称は今も残されています。永禄九年(一五六六)には、大河ドラマの主人公になった次郎法師(井伊直虎)が福満寺に鐘を寄進しているなど、井伊家ゆかりの史跡・建造物・伝承地が点在しています。



龍潭寺庭園

07.奥浜名湖の社寺と祭礼にみる歴史的風致

浜名湖北部の社寺と周辺の市街地を舞台に、特徴的な信仰や歴史的背景のある地域色豊かな伝統行事が歴史的風致を形成している。



細江神社祇園祭(船渡御)



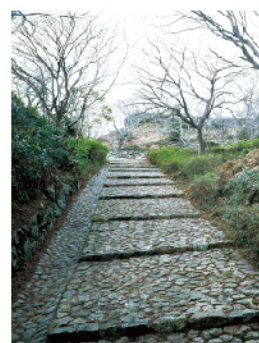
三ヶ日みかんの収穫

08.三ヶ日みかんの栽培にみる歴史的風致

江戸時代以降、湖岸の丘陵地を開墾して築かれたみかん畑と、積極果敢な進取の気風を反映した生産・顕彰活動が一体となって継承されている。



柑橘頌徳碑



鳥羽山城跡大手道

09.二俣地域の営みにみる歴史的風致

歴史的建造物が残る二俣市街地を舞台に、各町の屋台が引き回される二俣まつりなどの伝統行事が継承されている。



二俣まつり

■浜松市の歴まちカードは舞坂宿脇本陣にて配布中

- 配布条件等：①1人1枚 ②無料 ③指定配布場所来訪者のみ
- 配布時間：9時〜16時
- 定休日：月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日〜1月3日
- TEL：053-596-3715



舞坂太鼓祭り(岐佐神社例祭)

【歴史まちづくりカード(歴まちカード)とは】
「歴史まちづくりカード」とは、歴まち認定都市の象徴的な風景写真や歴史まちづくり情報を紹介したカード型パンフレットです。
歴史まちづくりに取り組み都市の魅力をもっとPRするため、国土交通省中部地方整備局と中部地方の歴まち認定都市が連携し、平成二十九年十月、全国で初めて発行しました。
○カード内容
(表面) 歴まち認定都市の象徴的な風景写真
(裏面) 歴まち認定都市の歴史まちづくり情報
※現在では歴史的風致維持向上計画の認定を国から受けた全国の都市で配布しています。

また、ひよんどり諸行事が行われる舞台である福満寺薬師堂(通称八日堂)の保存修理事業を実施しました。継承基盤を整備するとともに「ひよんどりの里」を象徴する良好な景観形成に大きく寄与しています。



若者と大松明のみめ合い

川名集落は、西組、上組、中組、下組及び東組に分かれており、旧川名小学校、溪雲寺、伊豆神社、福満寺薬師堂、農村公園がある上組と中組が集落の中心地となっています。土地利用の状況としては、川名川沿いの平地は水田、山林を切り開いた斜面地は畑として利用しており、このうち畑では花木(クジャクヒバ(孔雀檜葉)やセツカンスギ(雪冠杉)などの枝物)を栽培しており、川名の景観を特徴付けています。

川名集落は、少子化や人口減少の進行が著しい中山間地域に位置していることもあり、ひよんどりなど地域活動に関わる若年層の担い手確保が喫緊の課題となっていました。そのようななか、川名ひよんどり保存会は平成二八年(二〇一六)に浜松市内の大学生との連携を開始、ひよんどり行事に地元以外の大学生が参加する契機となりました。令和三年(二〇二一)には、これまで参加してきた大学生により設立された「NPO法人わたぼうしグラウンドデザイン」及び市内の大学教員により構成される「一般社団法人College Impact Japan」との連携を本格化させています。



御神田の収穫

川名では、地域社会の変容が著しい中山間地域におけるコミュニティ(地縁に基づく地域型コミュニティ)活性化の新たな形として、伝統行事「ひよんどり」を核に、学生団体・NPO法人・一般社団法人といった多様な主体(テーマ型コミュニティ)との連携に取り組んできました。川名における伝統行事継承の取り組みは地域づくりそのものであることを示しています。少子化や人口減少の影響を受けながらも、伝統と変革を融合しながら新たなコミュニティを創造することで、歴史的な集落景観の保全に寄与しています。

【伝統行事「ひよんどり」を核とした地域社会の維持継承】

六〇〇年の歴史を有する「川名のひよんどり」(国指定重要無形民俗文化財)を伝える川名集落の景観形成や保全は「川名ひよんどり保存会」が自治会と一体となって担っています。保存会は、地域固有の伝統行事を後世に残し伝えるとともに、地域の活性化を図る目的で昭和五〇年(一九七五)に設立されました。設立当初から、ひよんどりの確実な継承のため調査・記録作成・普及啓発等の各種事業を行うとともに、外部イベント等でひよんどりを上演することで、川名の魅力を発信し続けています。

このほか、自治会や地元団体と一体となって、集落内に点在する史跡看板の設置事業を実施しました。日常の風景に埋もれていた史跡(歴史遺産)を、景観資源として磨き上げ(顕在化)することで、川名の魅力を視覚的に伝えていきます。

「川名ひよんどり保存会」を中心に、歴史的景観を今に伝える「ひよんどりの里」の活性化に取り組んでおり、地域への誇りと愛着を育み、アイデンティティの醸成に尽力しています。

【地域型コミュニティとテーマ型コミュニティの連携】



川名ホームーズ

両法人との連携事業では、特にICT(情報通信技術)を活用した取り組みに力を入れています。ひよんどり行事全体を中継した十時間に及ぶオンライン配信やインターネットラジオ配信を実施しました。

また、小学校統廃合によりバス通学になった児童に対し、川名の景観や季節感を感じてもらうため、月一回の課外授業「川名ホームーズ」の運営も行っています。法人会員による野外活動やアートなどのワークショップを通じて「川名」に触れる機会を創出しています。



川名集落(ドローン撮影)

【生活又は生業の特性】

川名の集落は、西組、上組、中組、下組及び東組に分かれており、旧川名小学校、溪雲寺、伊豆神社、福満寺薬師堂、農村公園がある上組と中組が集落の中心地となっています。土地利用の状況としては、川名川沿いの平地は水田、山林を切り開いた斜面地は畑として利用しており、このうち畑では花木(クジャクヒバ(孔雀檜葉)やセツカンスギ(雪冠杉)などの枝物)を栽培しており、川名の景観を特徴付けています。



土地利用の状況(段々畑と屋敷地)

集落規模は、江戸時代中期から一二〇戸前後で推移しており、長期間にわたり世帯数に大きな変化がないことも川名集落の特徴の一つです。川名では正月の「ひよんどり」のほか、農事や山仕事との関わりが深く生活の節目となっている年中行事が行われています。沢の水源や滝にまつられた不動明王を祭る「不動さんの祭り」(二月)、津島神社の祭りである「祇園祭り」(七月)、川名の氏神である「伊豆神社の祭り」(十月)をはじめ、各組単位又は集落全体で行事が行われています。これらの祭事が営ま



伊豆神社と八日堂

れている空間は、社殿・鳥居・祠といった単体の建造物が、巨石・谷水・滝・社叢林などの地形地質・水系水利・植物相と一体化しており、人と自然の相互作用によって育まれた暮らしの景観が形成されています。

こうした祭事が営まれる場所(歴史的建造物や史跡など)には、案内板や解説板を設置しており、地域住民が日々の暮らしの中で目にするにより、地元の自然・歴史・文化と生活空間との一体性を再認識することに役立っています。



案内板